

E. M. フォースター作「永遠の命」における寓意的意味について

高坂 徳子

E. M. フォースター (E. M. Forster, 1879-1970) 作の短篇小説「永遠の命」 (“The Life to Come,” 1972) は 1922 年に書かれるも、同性愛が扱われていることを理由に死後出版された。本作は、宣教師の青年ポール・ピンメイ (Paul Pinmay) と奥地の族長ヴィソバイ (Vithobai) との同性愛を軸に、原住民のキリスト教への改宗と文明化の過程及び資源の採掘と搾取から始まり植民地の完成に至る過程が、「夜」、「夕」、「昼」、「朝」 (‘Night,’ ‘Evening,’ ‘Day,’ ‘Morning’) の四部構成で描かれている。

天地創造を想起させる構成や、ポールとヴィソバイの洗礼名バーナバス (Barnabas) の名からは、前者が使徒パウロ (Paulus) の英語名であり、後者はパウロと共に伝道の旅に出た人物と同じ名であることから本作の寓意性は明らかである。本発表では、本作の寓意性に込められたキリスト教批判と植民地帝国主義への批判を明らかにし、ハイ・モダニズムと呼ばれる第一次世界大戦後の戦間期である 1920 年代に本作と「ウラコット博士」 (“Dr Woolacott,” 1972) 及び「アーサー・スナッチフォールド」 (“Arthur Snatchfold,” 1972) が執筆された意味についても論じたい。

「Instagram を取り入れたアクティブラーニング

TOEIC Test Part1 写真描写問題、Part2 会話問題の問題作成授業の報告

松本恵美子

2020 年 11 月現在、世界における新型コロナウイルス (COVID-19) の拡大により、大学を含む教育現場での授業の進め方がオンライン中心や、それぞれの大学のプラットフォームシステムを使用したもの等に切り替わってから約半年が経っている。本研究発表では、日本で新型コロナウイルスが拡大する直前の 2020 年 1 月に行われた大学での授業の一つに焦点を当てている。この授業では学生の間で利用されている SNS の中でも利用頻度の高い Instagram を用いて、TOEIC の写真描写問題と会話問題のアクティブラーニングを行った。本研究発表は 2 つの方法で今後の教育環境に貢献していくことを意図しており、1 つは、資格試験対策の授業を、SNS を用いて楽しんで行うこと、もう 1 つは、新型コロナウイルスの蔓延による、大学の授業形態の方針に応じて、オンライン授業の助けとなるべく、Instagram を英語教育に組み込んで、今後の教室内の学習サポートツールとしての ICT 利用のヒントとなることである。